



第47回

## 国境をなくせば、国家もなくなる

作家・ドイツ在住 川口マーン恵美

### 欧州一美しいクリスマス市

クリスマス市はヨーロッパの12月の風物詩だ。私が38年も住んだシュトゥットガルトのそれは、自称「ヨーロッパで一番美しいクリスマス市」。実際、市役所広場に立ち並ぶスタンドは、他の都市のクリスマス市とは比べものにならないほど凝った飾り付けで、宣伝に偽りなし。スタンドのデコレーションがコンテストの対象で、期間の中日に一番人気のスタンドが表彰されることになっているので、ここまで凝るわけだ。だから、それを見るだけでも行く価値がある。



2025年のクリスマス市

昼間はベビーカーを押した人たちがいたり、年配の人たちが待ち合わせて、店をのぞいたり。出店は、お菓子やアクセサリー、衣料品から日用品まで何でもあり。

大人も子供もウキウキしている。大根でも玉ねぎでも何でも思いのままに切れるという万能スライサーを、それこそガマの油売りのような口上を述べながら売っている店があり、毎年、その前はすごい人だかり。皆がニコニコしながら聴きほれている。一昔前、私も思わずそのスライサーを買ってしまい、それを友人に話したところ、ワハハと笑われ、「実は私も買った」というので、2人で大笑いしたこともある。今でも使っているから、これも宣伝に偽りなしだ。

やがて夜の帳が下りると、無数のライトが灯り、辺りは一転、幻想的な雰囲気になる。零下になることも珍しくない中、グリューワイン(乾燥果物やハーブの入った温かいワイン)のグラスで手を温めながら、皆がなんとなく幸せそう。

クリスマスというのは日本のお正月と同じく家族の祝日で、その用意におおわらわの一方、皆が、日頃は忘れていたキリスト教を思い出したり、無事に一年を過ごせたことに対する感謝の念が湧いてきたりと、少しだけ敬虔な気持ちにもなる。

### メルケルが開いたパンドラの箱

ところが、その楽しいイベントが、2015年9月にメルケル首相がほぼ独断で国境を開いて以来、一変してしまった。2016年にはベルリンのクリスマス市にチュニジア難民がトラック